

メンタルコミットロボット「パロ」

とのふれあい

養護老人ホーム清水松風荘
支援員 王川絹子

取り組んだ課題

- ◆養護老人ホームに入所する認知症や統合失調症の方が、他の入所者との交流ができてにくい。
- ◆認知症や統合失調症の入所者の精神の安定や、気分転換の場を作りたい。
- ◆施設では動物を飼うことができない。かわいがったりお世話することでの生きがいがある。

メンタルコミットロボット「パロ」とは

パロは、タテゴトアザラシの赤ちゃんをモデルにしています。タテゴトアザラシは、毎年カナダの北東部のセントローレンス湾の氷海に集結し、2月から3月にかけて出産します。パロはこのタテゴトアザラシの赤ちゃんのように、柔らかく、さわ心地の良い人工毛皮で全身を覆われ、体にも柔らかさがあります。



メンタルコミットロボット「パロ」とは



具体的な取組

- ◆入所者が集まりやすい場所を選び、2名から5名位のグループで、定期的に「パロ」とのふれあい。
- ◆支援員室の入所者の目につく所に置き、訴えに来た精神的に不安定な入所者との交流。
- ◆特にグループ分けを行わず、日常生活のなかで、入所者全般を対象にした。「パロ」をきっかけとした交流。
(原則的に職員が場を設定し、会話の促しをするが関係の出来た後は、見守る。)

活動の成果と評価



入所者の精神の安定・安らぎの空間の創造

- ◆目頃、会話の少ない入所者の交流が多くなった。
- ◆精神不安定な方の、気分転換になった。
- ◆認知症の方の表情が和らぎ、笑顔が見られた。
- ◆施設全体に、活気が見られた。
- ◆「パロ」を撫でたり、抱いたりすることによって、動物とふれ合うことの疑似体験が出来、楽しみを感じている様子だった。

活動の成果と評価

「パロ」をきっかけとした入所者同士の交流の促進

- ◆入所者が集まりやすくなった。
- ◆普段、関係のない入所者同士の交流が始まった。
- ◆和やかな雰囲気と笑顔が見られた。
- ◆昔飼っていたペットの話など、会話のきっかけとなった。



今後の課題

- ◆たいへん効果があったが、購入については高価なため、現在のところ予定はない。
- ◆福祉ロボット貸出事業を利用させて頂きありがとうございました。

ご静聴ありがとうございました。